

寒露の候



はぐるま

酷暑の夏!!

暑さがすごかっただけに

秋風の心地よさが、身に

染み入ります。

紅葉の便りとともに、なんと

今年の冬情報も耳にし

さむ——い、という長期

予報。酷寒?だとか!!

今は暑さに疲れた身体を

休め、気持ちも穏やかに

秋を満喫したい気分です

ニヶ領用水沿いの街路樹

いちよう並木はもう少しで

山吹色に染まります。

寒露・空気が澄み夜空に

さえざえと月が明るむ

速報

仲間東北研修旅行へ

行ってきました報告

「はぐるま」便りの前号でお知らせしました『仲間東北研修旅行』を無事終え、作業所で研修のまとめをしています。

多くの皆様のご協力のもと、貴重な体験をたくさんしてきましたので、お伝えします。尚、研修のまとめとして、『仲間だより』ができますので、詳しくはそちらをご覧ください。



十三浜大指港に船が戻りました。

青山さん宅訪問

完成した御自宅の前で、出迎えてくださったご夫妻の表情が以前お会いした時より、明るくなっているのが印象的でした。中庭でわかめの芯抜き作業を体験させて頂き、試食も頂きました。



流された作業場も新しくなり、剣山さきわかめを裂く作業も見せていただきました。青山さんの、おじい様の元気なお姿を拝見し、

震災後のご苦労もあったと思いますが、安心しました。港の作業場を見学させて頂いた時は「ここまで復旧出来たのは、皆さんを始め多くの方々のお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。」と深々と頭を下げられ、仲間たちも「わかめを沢山売ります!」と約束してきたのでした。(第2作業所職員 蛭海)

No.76号

2013年10月11日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区首馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

仲間は東北へ行って何を見て来たのでしょうか。帰ってきた次の日の作文です。

宮城県研しゅう旅行に

大内 美枝子

3月11日大じしんがおこって、主月山さんはおんしんふつうになつてしまひました。二カ月くらいたつて花んぐくがこねました。主月山さんはもうわかめをやめようかと言つていました。今回主南三りぐの主月山さんをとたぐねて行って、主月山さんの家はみねにたてなおしてあり、海もみねになつていました。主月山さんは、11月だわかめのたねを海にまき、3月、4月、5月ごろにわかめが出来ますといふので来ました。ふねもほぼ出て

あり、ふつとしろもして

ました。ズもまだじい

んの前の所には、もど

てなく、かせつ住宅を

くらしてゐる人もい

ました。主月山さんが

福自山げんぼつ海

がよぶれたのでわかめ

が土冠になつたり、

こまるといふのでいま

した。まだじいしんのあ

ともほぼ残つていま

た。二年たつて主月山

さんもわかめもふね

ももどつたりになつて

ました。主月山さん

がわかめをやめよう

と田んぼの時、山の前

きんが佳木まり、また

つづけようといふので

来ました。家も海も



仲間の指差す方向にブイが引っかかっている

わかめももどつたりになつてました。主月山さんは、前の所にはわかめがこねなくなつてしまつたがだんだん前の所よりわかめがこねるようになっていきました。東北は工事の車が沢山あつて、さつと工事車中を走りました。私達もほぼきんなど協働カしたりので、もどつたりになつていきました。東北は工事の車が沢山あつて、さつと工事車中を走りました。私達もほぼきんなど協働カしたりので、もどつたりになつていきました。

きらら 女川見学

海岸線の町はすべてなくなっていて、工事のトラックが行き来する、荒野の様な女川の町の高台に、新築の作業所ができていました。

女川町に、障害を持つ人たちのための初めての就労支援事業所「特定非営利法人 きらら女川」ができたのは、二〇一〇年の十二月でした。活動が軌道に乗りはじめ、もう少し大きな

建物に引越しをするその日に、あの大地震と大津波にすべてさらわれてしまいました。利用者2名も犠牲になりました。それから2年半、待望の作業所が完成したので

当日は、まだ新築の香りのする建物から、阿部理事長さん、松原施設長さんをはじめ、スタッフの皆さん、きららの仲間の皆さんが笑顔で迎えてくださいました。

はぐるまの仲間も全員であいさつをした後、ここの主力商品「おからかりんとう」の袋詰め作業を全員が体験させてもらいました。一発できれいに袋の口を接着できる仲間もいて、「すごい」ときららの仲間にもめられています（これが結構難しいのです）

その後、名物「さんまパン」の試食と阿部理事長が技術開発した冷凍の生わかめの試食を理事長自らふるまってくださいました。

そして、はぐるまの仲間からの質問タイム。「今、困っていることはありませんか？」「工賃やボーナスはどれくらいもらっていますか？」など。

そこから見える、女川の現実。

ほとんどの仲間や職員が仮設住宅から通っているということ、理事長のご家族もまだバラバラに暮らしているということ、今年の4月に仮の事業所ができるまでは、仲間たちは何もできず、仮設で過ごしたということ…。

改めて感じる、復興への道のりの険しさではありませんが、「私たちは前を向いています」

「働けるということが何よりうれしい」といつたきららの仲間のことばは希望の原石のように思え、それは私たちも日々の中で忘れてはいけないことだと、強く思えたのでありました。

今回の旅は、これで終わりではありません。これが始まりです。今回のことを教材に、私たちにできることを探していきます。

(第一作業所職員 金田)



阿部理事長さん実演

冷凍なまわかめ試食



焼きホタテ うめがったく



十三浜相川の石窯広場にて

「いつか十三浜を仲間たち全員で紹介できる日を夢見て」と、関係者の皆様にお伝えしていたのが2年ほど前になります。

そして震災から2年半が経過した先月

9月18日、はぐるまの会と十三浜のご縁を繋いでくださった海藤節夫さん（海ちゃん）と、いつも仲間たちに美味しい海産物を送ってくれる十三浜相川地区のお父さん・お母さん達とびきり新鮮な「十三浜自慢の海ごはん」を用意して出迎えてくれました！



奥に見えるのが、十三浜産直センターです！

「青山さん応援募金」から始まった十三浜への応援活動は、3年目を迎える現在ではこんなにも沢山の方々のご縁をいただいております。十三浜の住民の憩いの場になればとピザ焼き用の石窯とハーブ園「石窯広場」をつくった事がきっかけで、隣接地には念願だった道の駅「十三浜産直センター」がオープンをしました。

そして、何よりも誇らしいことは、この十三浜の皆さんが元気に暮らしを取り戻していくまでのきっかけづくりとしての支援活動（支援ライブ出演・十三浜ハーブ園）にはぐるまの仲間たちが主体的に関わってきたということです。

「十三浜の若布をたくさん売ります！」と青山さんに元気に宣言をしてくれてくれた仲間たちです、これからも川崎から十三浜へ力いっぱい応援をしてくれることと信じています。

十三浜相川のお父さんお母さん美味しい「海ご飯」をごちそう様でした！これからもよろしくお願いたします！（法人本部渉外 福田）

